

生した場合、第三者を使って問題解決を図っていたが、地域住民に委ねて解決を図る方法もある。地域の問題解決にコミュニケーションとの協働という一歩踏み込んだ協働が、これからの重要なテーマだと考えるが、市の見解を聞きたい。

**▲企画財政部長** 行政だけでは問題解決に向けたきめ細かな対応が困難な事例も多く生じていることから、現場をよく知る地域の方に管理をお願いしたほうがいい場合もある。現在も協働の視点から、地域に密着した施設や一部の公園などの管理を地域にお願いしたり、市民参画による美化愛護活動などを展開したりしている。こうした活動をさらに発展させ、行政・市民・NPOなどの役割分担を明確にする中で、あらゆる公共サービスに常に協働の視点から展開していきたい。



## 救急電話相談窓口 番号の簡素化を

**☐神田議員** 看護師や医師が夜間の急な病気の相談に応じ、医療機関へ受診する必要があるかどうかをアドバイスする救急電話相談窓口が香川県にある。救急車の出動件数が増加する一方、救急性が薄い事案も多く、救急車の不要な出動を防ぎ、救急命を救うためには、この相談窓口は非常に重要であり、電話番号をもっと市民に知ってもらわなければならない。しかしながら、この番号は10桁もあり、必要ときにすぐに覚えてこない。全国には4桁の短縮番号を採用している県もあるが、本市ではできないか。

**▲消防長** 小児救急相談窓口は厚生労働省の事業として実施している。全国統一の4桁の番号を使用している。それに対し、一般救急相談窓口は県の事業として行われており、県が全額費用を負担しているため、費用対効果を考えると、電話番号の簡素化は困難だと県は説明している。本市としては、他県の実状を見ながら、引き続き県に働き掛けたい。

**小児救急電話相談**

毎日午後7時～翌朝8時  
☎ #8000 または  
087-823-1588

❤

**一般向け救急電話相談**

毎日午後7時～翌朝8時  
☎ 087-812-1055

## 特定健診受診率 改善の対策は

**☐中谷議員** 低迷している丸亀市の特定健診受診率を改善するための対策が必要である。市民の目線で、健診の定着と健康づくりを進めるため、次の3点①医療機関が少ない地域を中心に集団検診を実施②市外のかかりつけ医でも特定健診を受けられるようにすること③人間ドックへの補助再開の実施を求めたい。

**▲健康福祉部長** ①身近に医療機関がない地域での集団検診の実施については、駐車場の確保など厳しい課題もあるが、今後増やす方向で検討していきたい。

ら、引き続き県に働き掛けたい。

②坂出市の医療機関の健診実施項目は本市と同じだという指摘もあることから、丸亀市医師会とも協議し、市外の医療機関での特定健診の受診の可能性について探りたい③人間ドックへの補助を実施した場合の費用を試算すると、多額の予算が必要となることから、本市の国保会計が赤字の現状では、人間ドックへの補助の実施は困難である。



## 災害時における ペットの同行避難

**☐福部議員** 大災害とは無縁でない本市において、ペットの同行避難等についての独自のマニュアル作成や、体制整備に取り組むことについて、どう考えているのか。

**▲生活環境部長** 「丸亀市地域防災計画」に、ペット同行避難等の体制整備に係る愛玩動物の



保護計画として、愛玩動物避難  
逸走防止対策、避難所における  
動物の適正飼養対策、飼養動物  
の管理の3項目が示されている。

しかし、災害時におけるペット  
が同行できる避難所の設定や保  
護収容施設の設定など、個別具  
体的なことに関しては、県や関  
係機関との協議、連携の下、体  
制を整える必要がある。引き続  
き、国、県の方針や香川県獣医  
師会など専門家などの意見も取  
り入れ、先進地の事例も踏まえ  
ながら、適切な保護体制の整備  
を検討していく。また、災害時  
には、飼い主が適正に管理する  
ことが非常に重要であることか  
ら、これらについても今後啓発  
に努める。



迷子札・注射済票の装着を

## 道路歩道部分の カラー化について

加藤議員 通学路の安全対策  
として、道路の歩道部分をカラ  
ー化すべきと考えるが、香川県  
道路交通環境のあり方検討委員  
会の検討結果を受け、本市はど  
うするのか。

都市整備部長 香川県道路交  
通環境のあり方検討委員会で、  
今後の方針として、県がカラー  
舗装を行う場合、歩行者用は緑  
色、自転車用は青色、交差点は  
赤色または青色、車線について  
は左折車線が赤色、右折車線が  
青色で、車線ごとに異なる色が  
望ましいと報告されている。現  
在、県公安委員会では、交差点  
手前の止まれる周りには赤色で  
目立つような路面標示を、また  
横断歩道の区画線の前後には緑  
色の路面標示を行っており、市  
内にもカラー化箇所が増えてい  
る。

本市も教育委員会などと協議  
を行い、まずは通学路の危険度  
の高い所から優先的に取り組む  
こととし、県公安委員会との整  
合性から、緑色のカラー化に來

年度から取り組んでいきたい。



県道路面のカラー化

## 丸亀を訪れた龍馬 観光資源で活用を

水本議員 平成27年の坂本龍  
馬生誕180周年を記念し、坂  
本龍馬が丸亀を訪れたことを観  
光資源として、様々な手段で市  
のPRを図ってはどうか。

産業文化部長 龍馬が丸亀を  
訪れたという歴史的事実を観光  
資源として活用し、より多くの  
観光客を誘致することについて  
は、本市観光の振興を図るうえ  
で有効な手段の一つである。そ  
こで、龍馬が丸亀の地に残した  
足跡や、龍馬とかかわった人物  
などについて調査研究し、矢野

## 一般質問

道場跡などゆかりのある場所に  
掲示板を設置することや、チラ  
シ、パンフレット、ホームページ  
などにより、広く情報発信し  
ていくことは、市民だけでなく、  
全国の歴史ファンの興味を引く  
ものであると考える。

特に、龍馬生誕180周年に  
向けての観光PRについて、龍  
馬生誕の地である高知県とも情  
報交換を行い、例えば龍馬ツア  
ーとして高知県からの誘客に努  
めるなど、幅広い観点から検討  
していきたい。

## 公共施設の維持・管理 財政的にどう考える

横川議員 本市のバランスシ  
ートには施設の更新料は含まれ  
ておらず、隠れ負債と言える存  
在である。今後の人口減少を想  
定すれば、増大する需要を減少  
する予算で賄うという矛盾をど  
うクリアしていくつもりか。

企画財政部長 将来発生する  
施設更新に係る多額の費用につ  
いては、世代間の負担の公平性  
の観点から、その施設を実際に  
利用する各世代が負担すること  
が原則である。基本的には市債



などで財源を調達し、後年度にわたる償還により費用を平準化する必要がある。同時に、可能な限り負担を軽減するためにも、充当可能な基金の内部留保に努めなければならぬ。

一方、人口増に並行した公共施設の需要量はピークを過ぎ、本市をはじめ近隣の公共施設に重複や余剰がないか、実態を把握し、広域的かつ長期的な視点で現有施設の利用について公民連携を進めるなど、11万都市の身の丈に合う公共施設の整理も重要な視点だと考えている。

## 駐車場と受付の人員 現在の人数で適切か

◎佐野議員 市役所駐車場の交通整理員と総合受付の人員が多過ぎるという市民の意見があるが、市の見解は。

△企画財政部長 市役所構内駐車場はシルバー人材センターへ業務委託を行い、構内駐車場の車の誘導整理や他の駐車場への案内業務などを行っている。常時2名を配置しているが、来庁者に安全に安心して駐車場をご利用いただくためにも大事な業

務である。また、来庁者への案内業務を行う総合案内所には2名、市民課前のフロアマネジャーは1名の派遣職員を配置している。来庁者の多い市民課、保険課は業務内容により窓口が分かれているが、まずフロアマネジャーが内容をお聞きし、該当する窓口の番号札を発券している。また、事前に申請書の記入方法や必要書類について説明をすることで、窓口でスムーズに手続きが行えている。市民目線のきめ細かな案内業務を行うためには、現在の体制が必要と考えている。

## 低料金の市民プール 早急に整備を

◎尾崎議員 スポーツ振興ビジョン策定のアンケートで、どんなスポーツをしたいかとの問いに水泳と答えた小学生が最も多かった。こんなに要求が強いのに、本市には市民プールがない。早急に安く利用できる市民プールをつくるべきではないか。

△生活環境部長 市民プールについては、市民体育館北側に整備する予定としていたが、整備

の時期やどのようなプールにするかなど、具体的な計画については着手できていない。また、中讃地域には、善通寺市や坂出市、多度津町に公営プールがあり、市内には昨年ニューレオマワールド内にレクリエーションプールがオープンしており、近隣市町において機能が重複する施設は必要ないのではとの意見もある。新市民プールの整備を考えるうえで、近隣市町や民間プールの形態や利用状況、市民の要望などを踏まえ、本市スポーツ推進審議会と関係機関や各種団体と十分に協議、調整を図りながら、慎重に検討したい。

## いじめゼロに向け 各種制度の活用を

◎内田議員 いじめ相談弁護士ネットワークという組織が発足した。こうした社会の動き、制度の展開に敏感に反応し、本市の学校現場でも積極的に活用し、その普及活動をすべきではないか。

△教育長 被害者や被害者遺族の相談を受け付ける救済組織として、いじめ相談弁護士ネットワークに大いに期待している。校長会

などを通して学校現場への周知を図りたい。また、25年6月に成立したいいじめ防止対策推進法は、国と学校にいじめ防止基本方針の作成を義務付け、各学校には教職員や心理、福祉の専門家から構成する組織の設置や、児童・生徒の生命などに影響を及ぼすような重大事態が起きたときは、学校や自治体が迅速に調査委員会を設置することなどを明記している。現状は国の基本方針が出たところであり、県の基本方針が出れば、本市も条例で基本方針を定める予定であり、本防止法が一つの救済法となり、いじめ対策組織が救済機関となるような運用にしたい。



ストップいじめ！「ピンクのシャツ運動」



のぼり掲げ、議会報告会を街頭アピール



駅前や  
スーパー前で議員有志が街宣活動

近づく議会報告会に一人でも多くの参加をと思い、のぼりを新調。マイクを握り、チラシを配りました。

議会報告会当日。市民から「駅前でチラシをもらったので来て

みました」とうれしいお声。でもアンケートには「宣伝の勢いの割には内容がイマイチ」との厳しいご意見も。

回を重ね、もっと充実の報告会にしていきたいと思います。



一方で商店街の衰退は著しく、

海外の都市や横浜、金沢などのまちづくりの取り組みがスライドで紹介されたあと、丸亀の持ち味について検討しました。「お城は丸亀の宝。駅がこんなに近いこと、そこからすぐに港があることは大きな魅力。港から緑をつなげ、歩いてお城に至る、歩いて暮らせる健康都市……。そんな構想を掲げてはどうか」との提案がありました。

富屋町アーケード撤去後のまちづくり

識者を招き  
大いに学ぶ!

講演後、議員から盛んに質問があり、活発な勉強会となりました。市議会はこれからも市民の声にアンテナを張り、識者の意見や先進事例を学び、市政を大いにリードしてまいります。

11月7日の都市経済委員会協議会では、香川大学経済学部の西成典久教授をお招きし、これからのまちづくりについて委員外議員も参加し、大いに勉強しました。

この30年でまちなか人口は30%減少し、郊外は40%の増加。特に、旧城下町エリアでは55%の人口減少とのこと。しかし人口減少時代のまちづくりはコンパクト化、まちなか定住化が進められるべきと提唱されました。

編集  
後記

議会基本条例制定から間もなく2年。県下でも高松市とさぬき市を除く6市が制定を終え、それぞれ知恵を絞り、改革に取り組んでいます。丸亀市議会でも議会報告会の開催や本会議での委員長報告の改善のほか、12月定例会でも、請願を出した市民が議会で陳述する場を設けるなど、改革を進めています。市側と議会が向かい合って座るのでなく、議員同士が対面して自由な討議を行う光景も、珍しくなくなりました。

議会改革とともに、市庁舎整備等特別委員会や競艇事業の会計方式の見直し、予算・決算審議のあり方検討など、さまざまな課題に果敢に挑戦しています。間もなく新年度予算の審議が始まります。野球は9人、サッカーは11人。チーム市議会26人は議論を尽くし、ベストを尽くしてまいります。

広報広聴委員長 内田俊英